

令和2年

中央労働基準監督署管内の労働災害の現状



中央労働基準監督署 安全衛生課

令和3年6月

1

令和2年 中央労働基準監督署管内における労働災害の発生状況

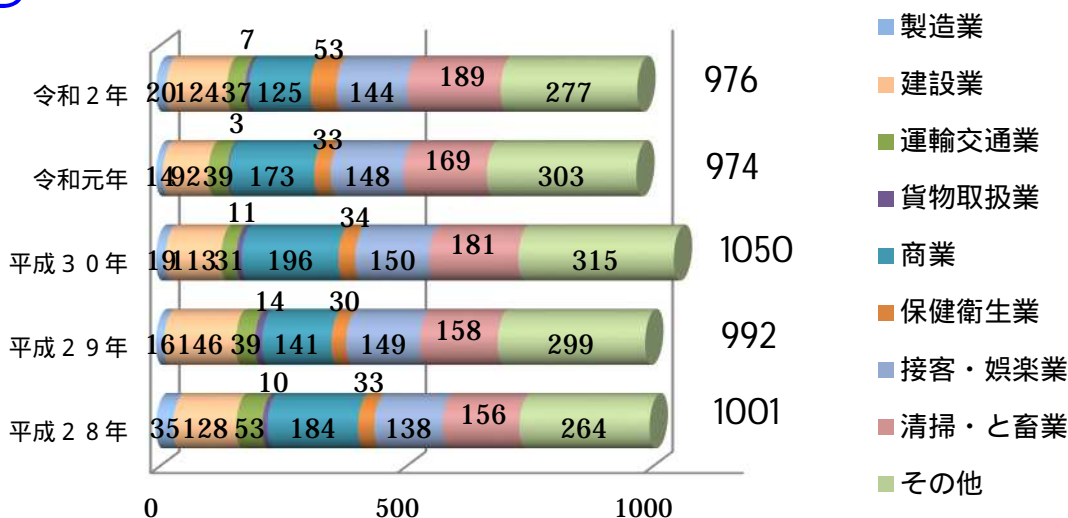
令和2年の中央労働基準監督署管内の労働災害による死傷者数（休業4日以上）は、前年と比べて2人増加し、976人となりました。

また、死亡者数は4人で、前年よりも1人増えました。

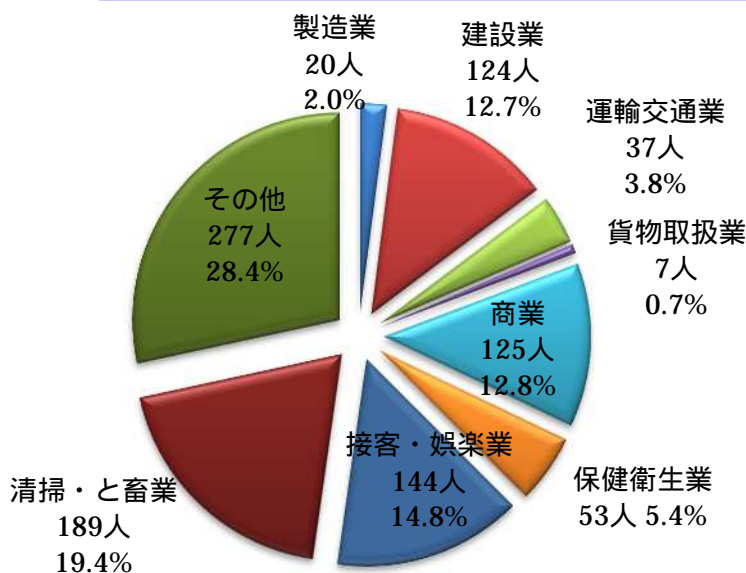
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
全産業死傷者数	1001	992	1050	974	976
全産業死亡者数	10	7	3	3	4

2

業種別災害発生状況



令和2年の業種別死傷災害発生状況

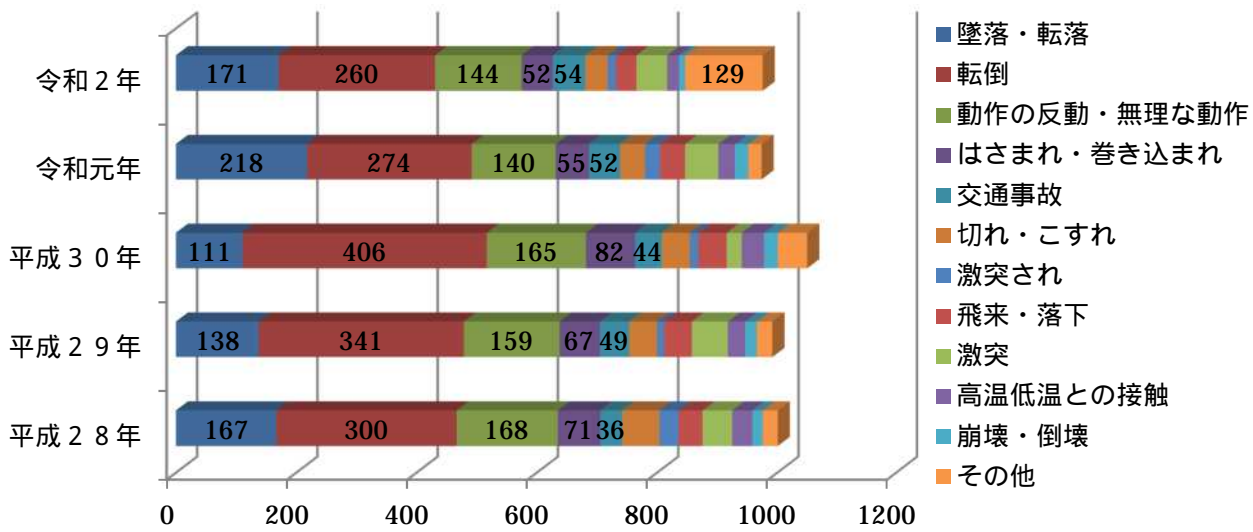


令和2年の死傷者数は、976人となり、前年と比較して2人（0.2%）増加しました。

「その他」の割合が28.4%と最も高く、「清掃・と畜業」が19.4%、「接客・娯楽業」が14.8%と続いています。

3

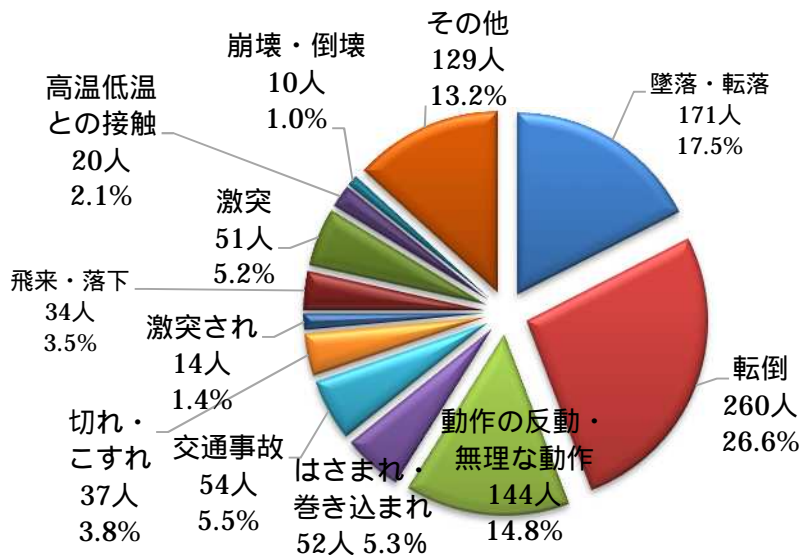
事故の型別災害発生状況



過去5年を見ると、「墜落・転落」、「転倒」、「動作の反動・無理な動作」、「はさまれ・巻き込まれ」、「交通事故」が増減を繰り返しながらも、全体に占める割合が高い傾向にあります。

令和2年は、前年と比べて、「墜落・転落」(-47人)、「転倒」(-14人)が減少した一方で、「その他」(129人)が大幅に増加しました。「その他」の中には、新型コロナウイルス感染症が含まれます。

令和2年 事故の型別死傷災害発生状況

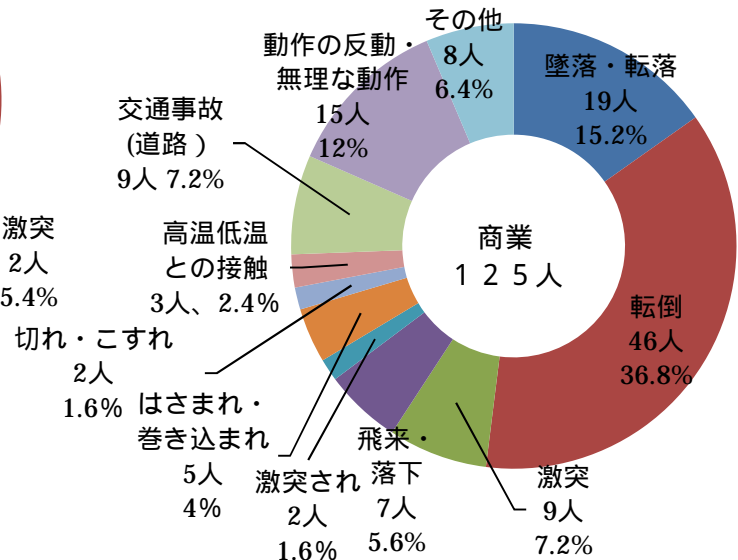
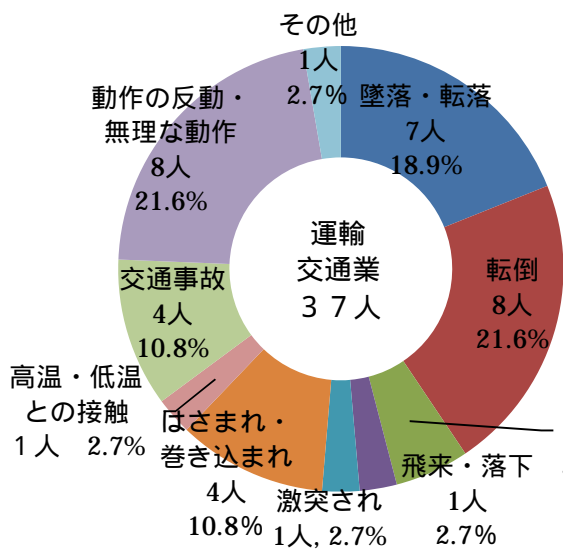
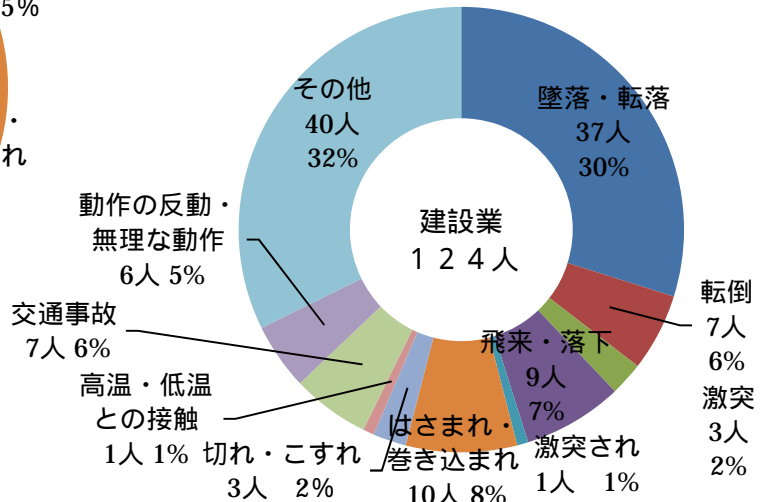
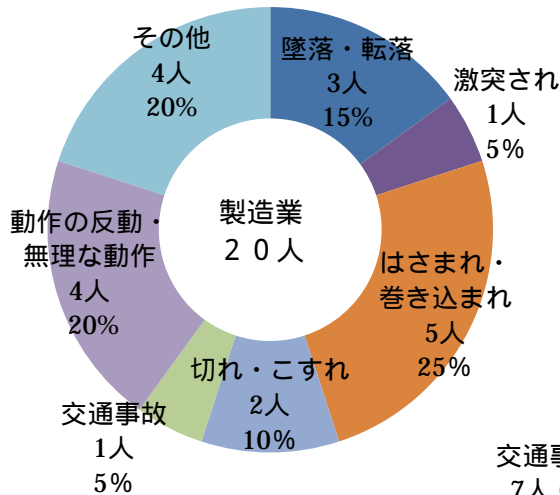


4

業種別・事故の型別・起因物別災害発生状況 —業種によって異なる死傷災害の特徴—

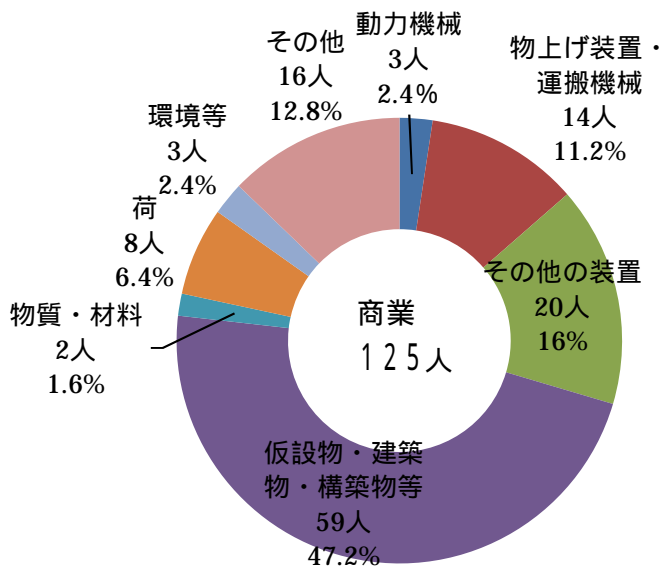
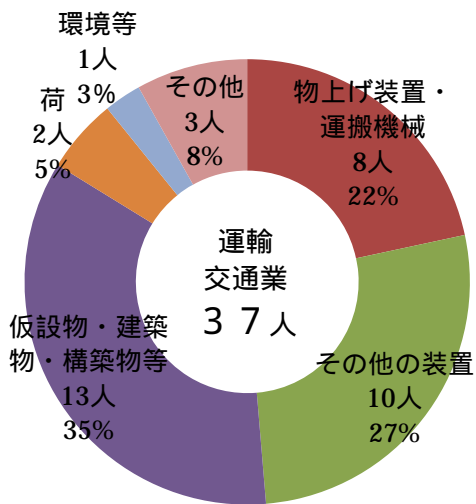
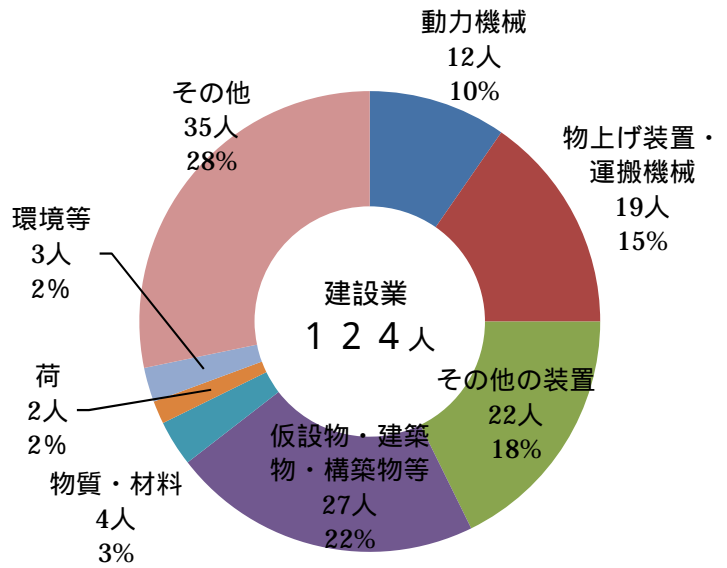
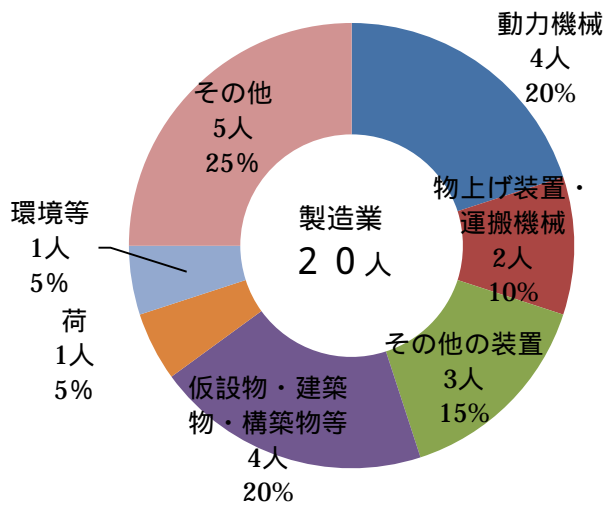
(1) 業種別による事故の型

令和2年



事故の型で見ると、製造業では「はさまれ・巻き込まれ」が、建設業では「その他」を除くと「墜落・転落」が、運輸交通業では「転倒」と「動作の反動・無理な動作」が、商業では「転倒」が多く発生しています。

(2) 業種別による起因物別

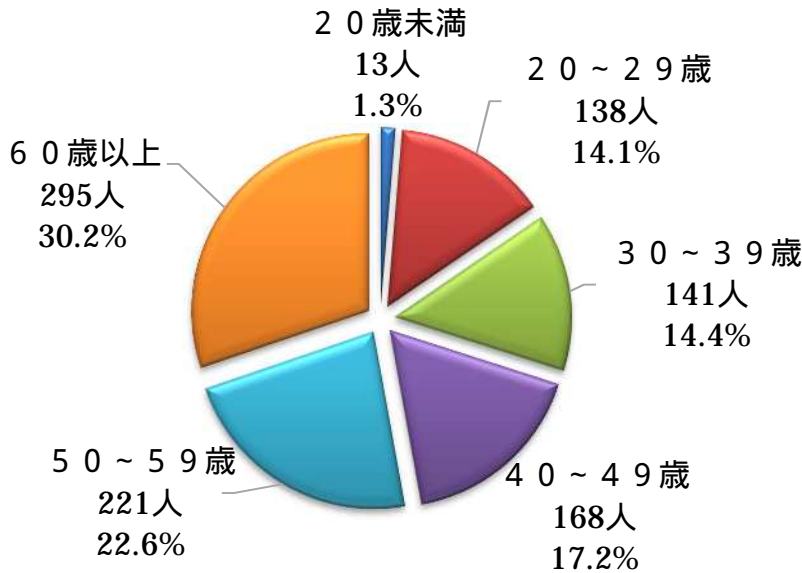


起因物別でみると、最も多いのは、製造業と建設業はともに、「その他」が、運輸交通業と商業はともに、「仮設物・建築物・構築物等」となっています。

5

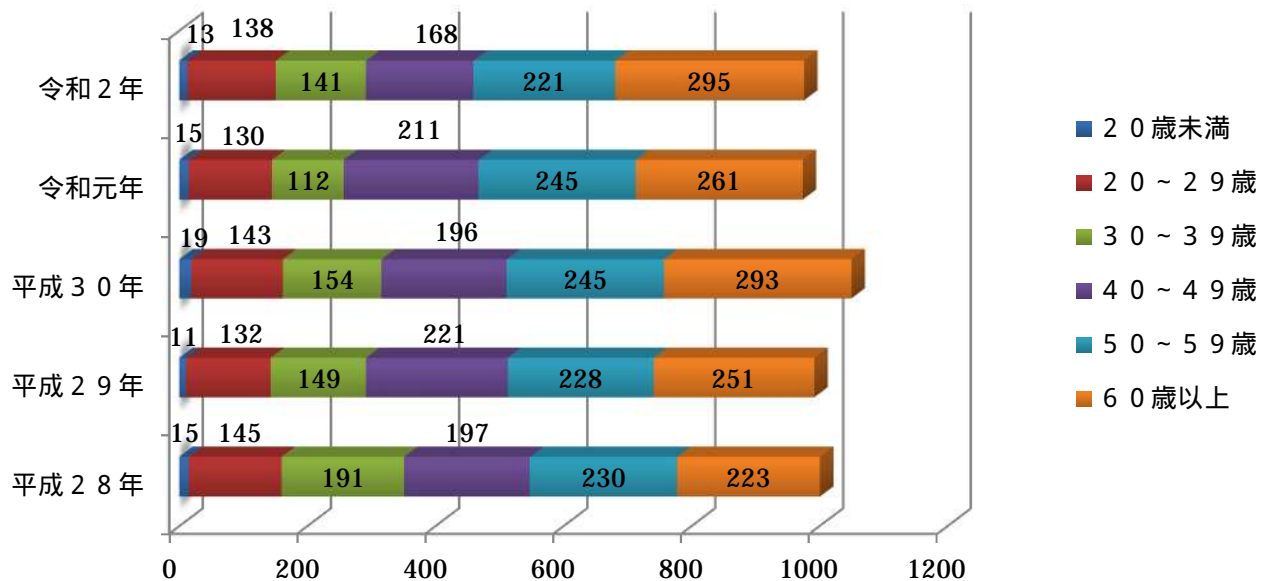
年齢別死傷災害発生状況

令和2年



年齢別で見ると60歳代が295人と最も多く、50歳代の221人、40歳代の168人と続いています。

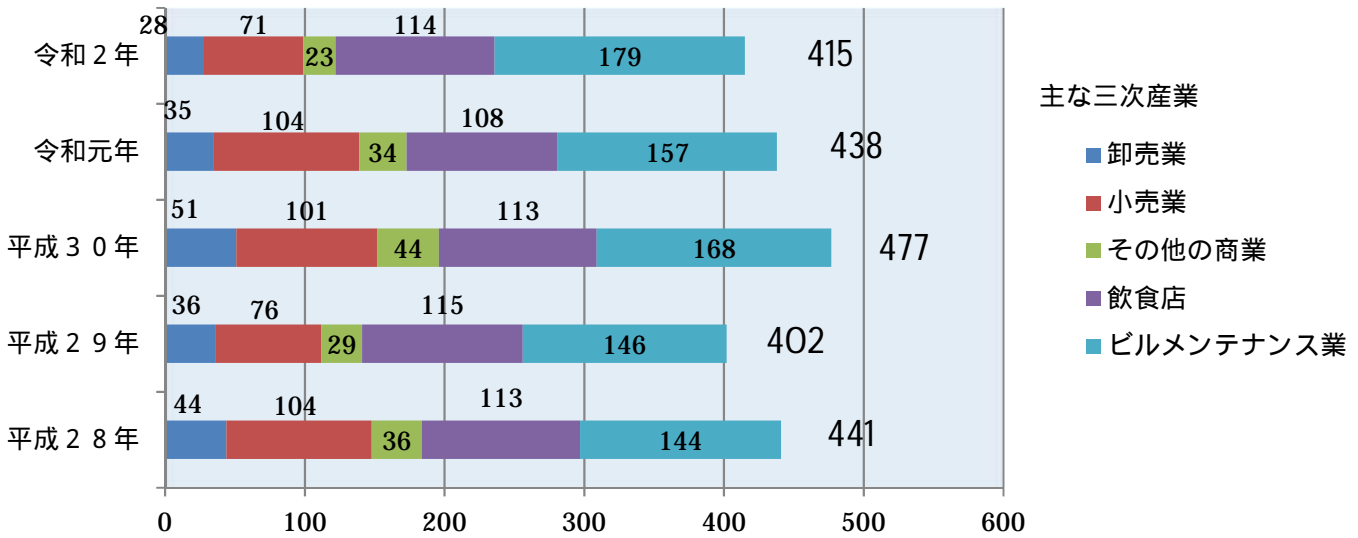
高齢者（50歳代以上）については、516人と全体の半数以上を占めています。



過去5年間の状況を見ると、令和元年を除くと、年代が上がるほど労働災害が増加する傾向があります。

6

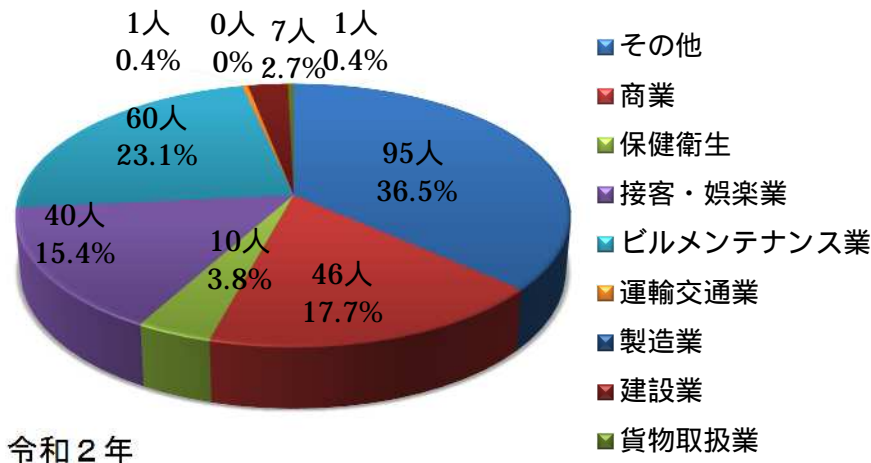
第三次産業における死傷災害発生状況 —転倒災害が多い—



主な第三次産業（ここでは、卸売業、小売業、その他の商業、飲食店、ビルメンテナンス業をいう。）における死傷者数は、令和2年は415人で、令和元年の438人から23人減少しましたが、全産業の4割以上を占めます。

令和2年の内訳は、ビルメンテナンス業（179人）が最も多く、飲食店（114人）、小売業（71人）と続いています。

依然として多い第三次産業の転倒災害 (保健衛生・商業・接客娯楽・清掃・その他)



転倒災害（全業種260人）について、第3次産業（商業・保健衛生・接客娯楽・ビルメンテナンス業、その他）が業種全体の95%以上を占めています。

第三次産業の中では、「その他の事業」が最も多くなっています。

その他の事業には、企業本社も含まれます。

7

建設業における労働災害の発生状況

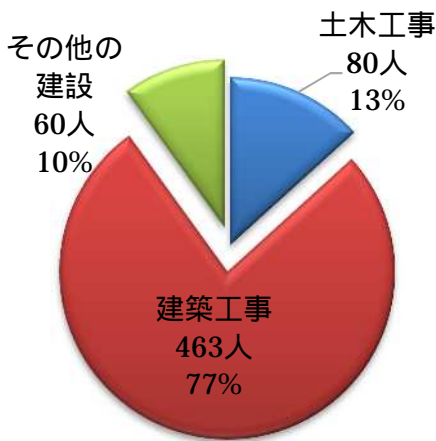
建設業における死傷者数は、長期的に減少傾向にあり、令和元年には92件まで減少しましたが、令和2年は124件と増加に転じました。

事故の型では「墜落・転落」が多く、起因物では「仮設物・建築物・構築物等」が多くなっています。

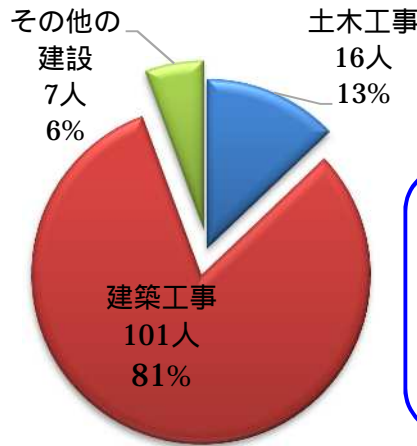
死亡災害は、令和元年、令和2年と発生していません。

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
全産業死傷者数	1001	992	1050	974	976
全産業死亡者数	15	7	3	3	4
建設業死傷者数	131	146	113	92	124
建設業死亡者数	7	5	2	0	0

平成28～令和2年
(過去5年)

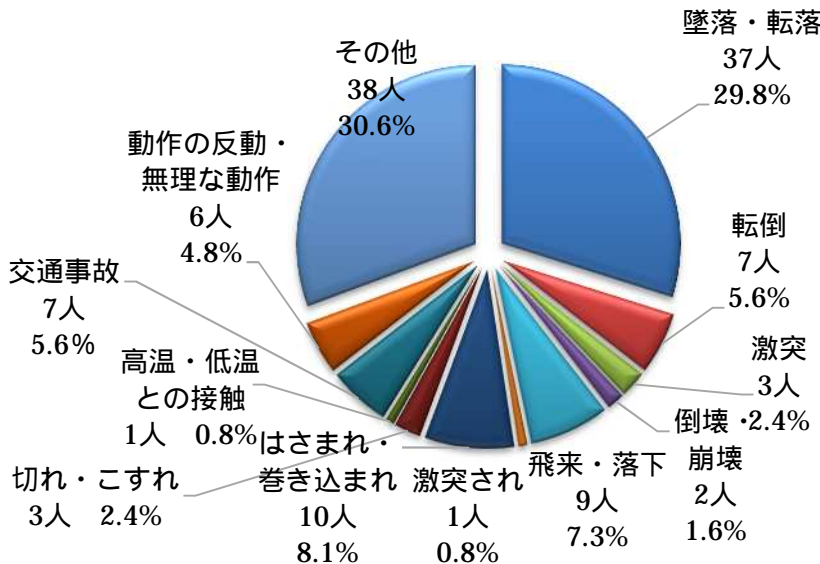


令和2年



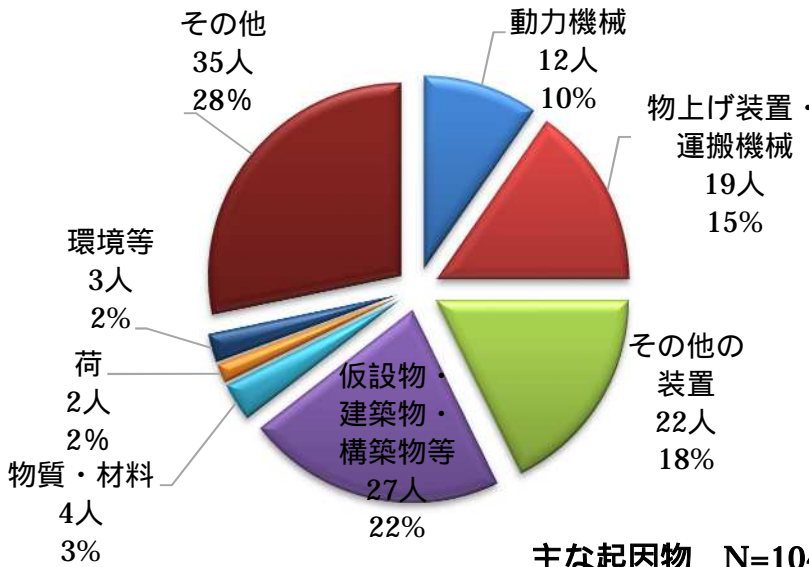
建築工事が建設業全体の約8割を占め、土木工事が1割強、その他の建設が1割弱を占める状況が続いています。

事故の型別発生状況



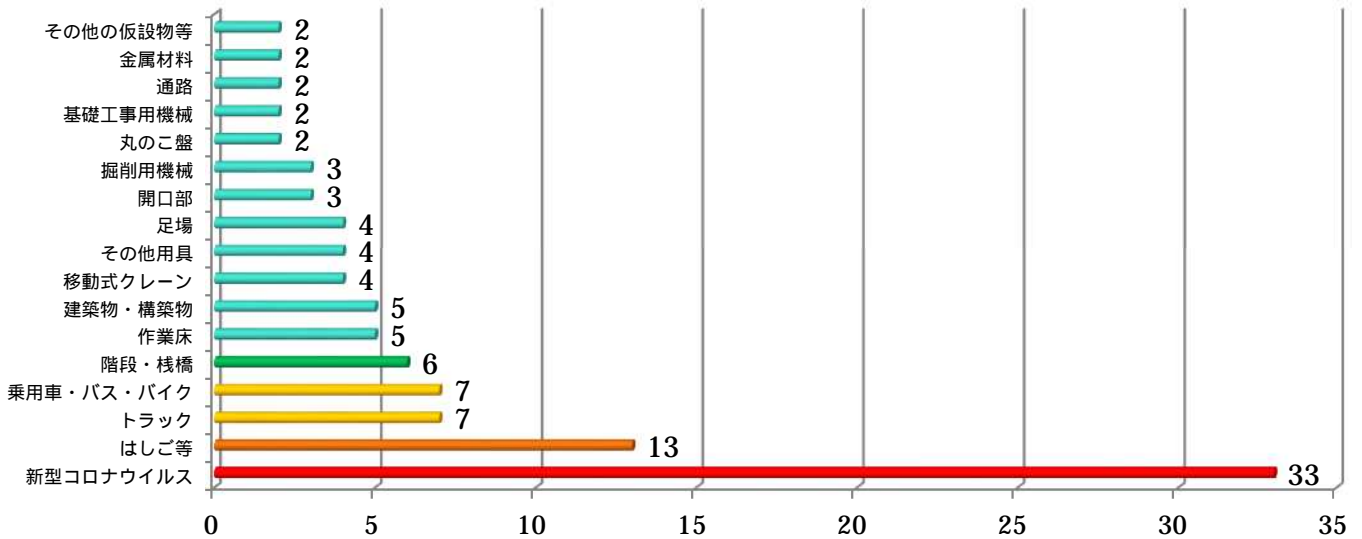
事故の型別でみると、「その他」(38人)と「墜落・転落」(37人)が非常に多く、「はさまれ・巻き込まれ」、「飛来・落下」と続いています。

起因物別発生状況（大分類）



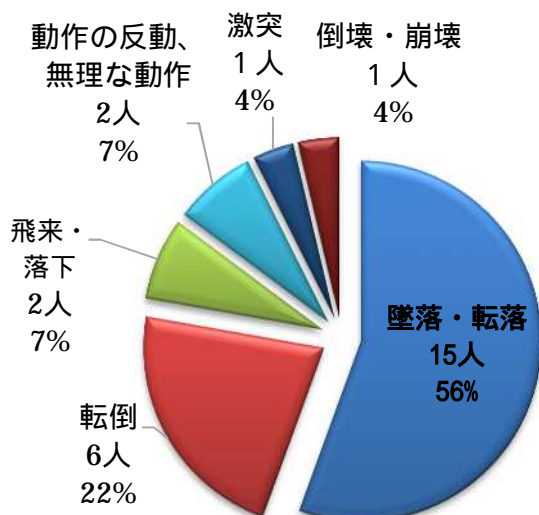
起因物（大分類）では、「その他」が35人（28%）で最も多く、次いで「仮設物・建築物・構築物」が27人（22%）と多く、「その他の装置」22人（18%）、「物上げ装置・運搬機械」19人（15%）と続いています。

主な起因物 N=104

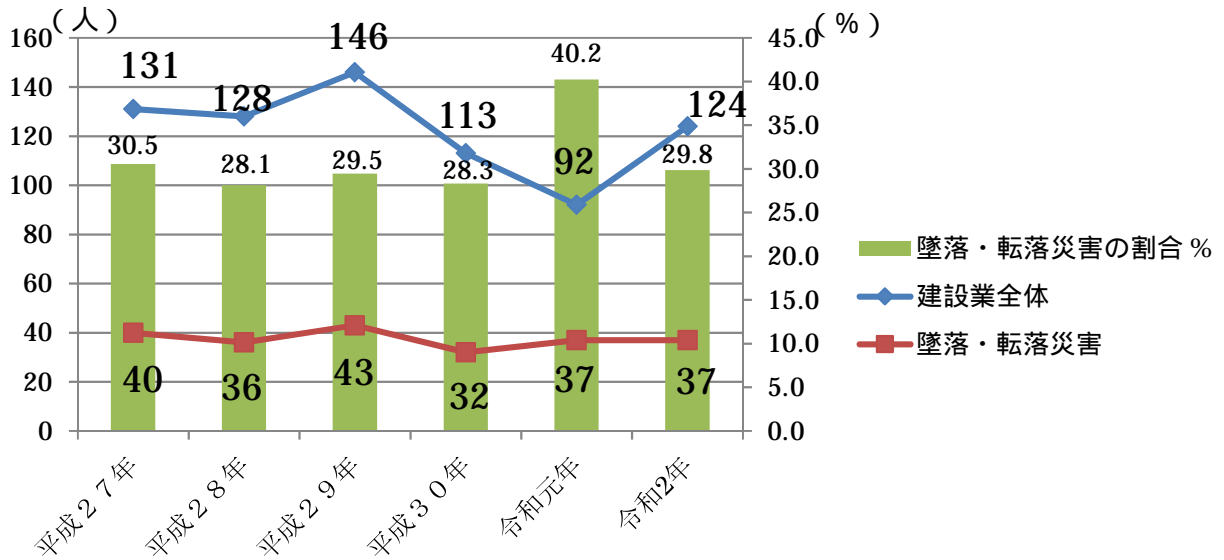


主な起因物を見ると、「新型コロナウイルス」が突出して多く、「はしご等」、「トラック」、「乗用車・バス・バイク」による災害も多く見られます。

仮設物・建築物・構築物等の事故の型



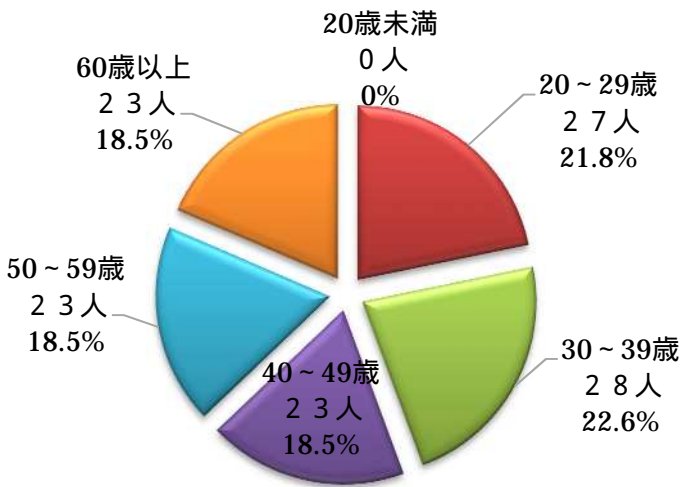
起因物で2番目に多い「仮設物・建築物・構築物」の事故の型を見ると、「転落・墜落」が最多で全体の半数以上を占めています。



建設業の労働災害件数は、増減を繰り返していますが、建設業の全労働災害件数に占める墜落・転落災害の割合は30～40%を占め、依然高い傾向にあります。

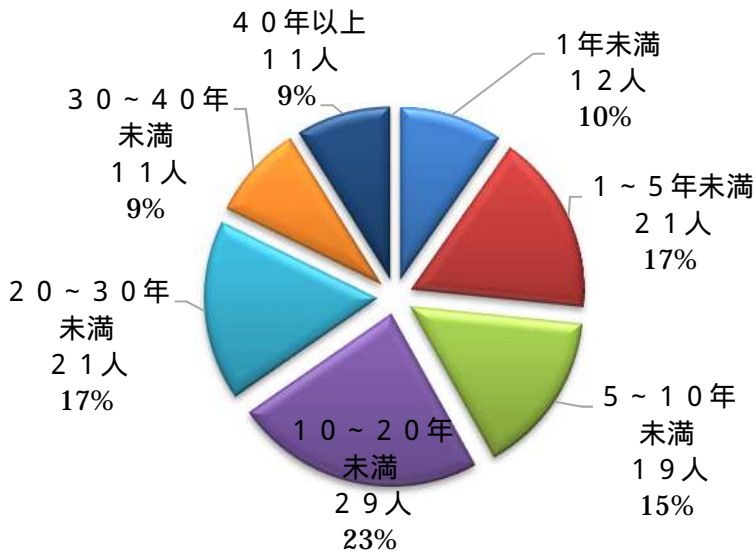
令和2年

年齢別災害発生状況



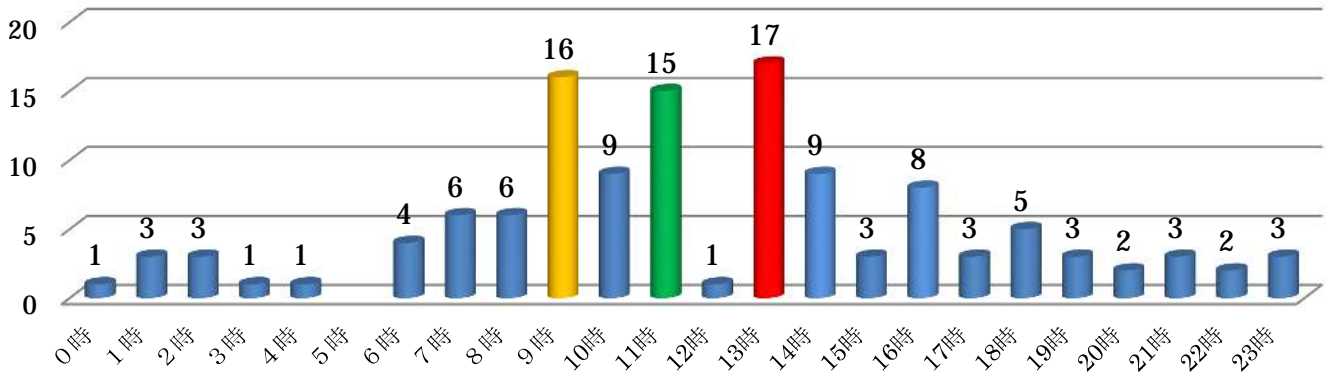
年齢別の災害発生状況を見ると、20歳代と30歳代がやや多い傾向にあります。また、40歳代～60歳代は同数となっています。全体に占める高年齢者（50歳以上）の割合は、4割弱となっています。

経験年数別災害発生状況



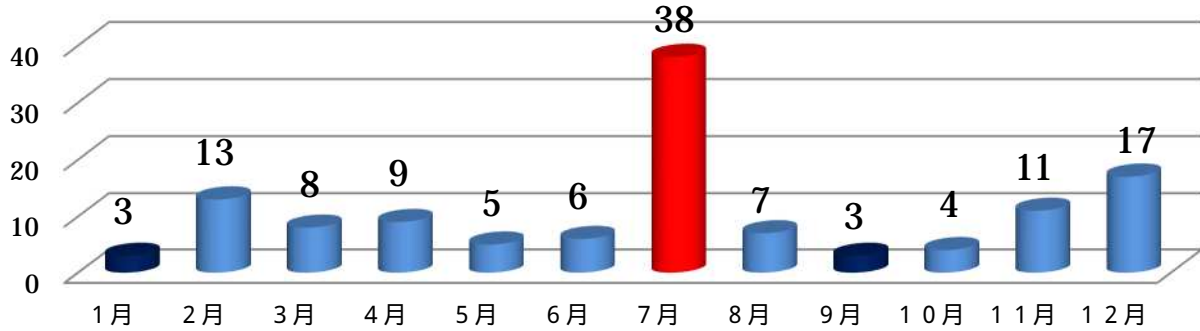
経験年数別で見ると、経験5年未満の「未熟練、不慣れ」による災害も多いですが、経験10年以上の者が全体の6割近くを占めており、「熟練者の慣れ等」が起因する災害も多く発生しています。

時間別災害発生状況



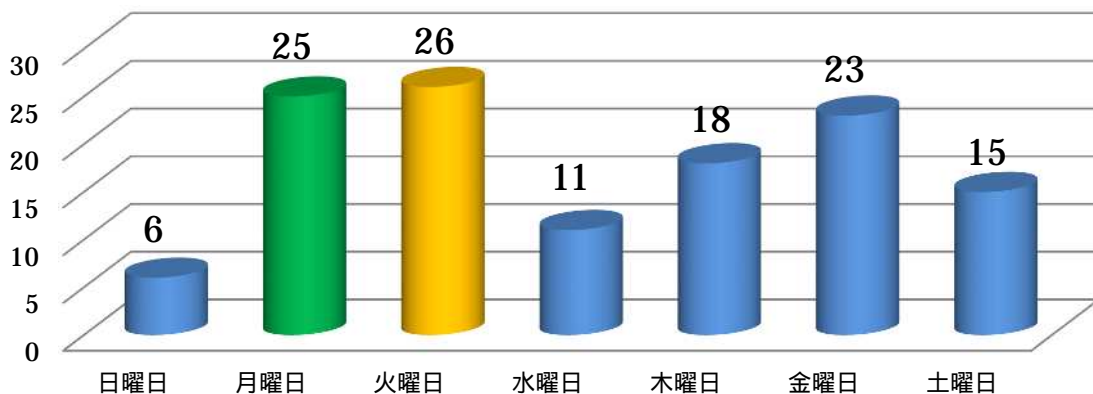
時間別災害発生状況を見ると、9時台、11時台、13時台に多いほか、深夜時間帯にも発生する傾向にあります。

月別災害発生状況



月別災害発生状況を見ると、7月が突出して多く、1月と9月が少ない傾向にあります。

曜日別災害発生状況



曜日別災害発生状況を見ると、週前半の月曜と火曜に多く発生する傾向にあります。

8

接客娯楽業における労働災害の発生状況

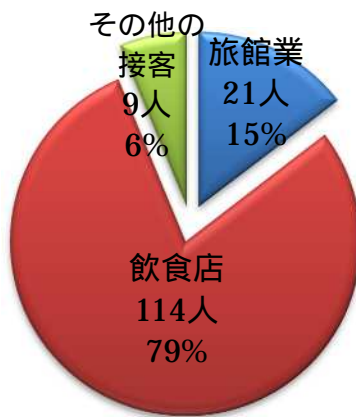
接客娯楽業は、全産業の中でも約15%を占め、全業種の中では「その他の事業」、「清掃・と畜業」の次に多くなっています。

過去5年では、減少傾向は見られません。

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
全産業死傷者数	1001	992	1050	974	976
全産業死亡者数	10	7	3	3	4
接客娯楽死傷者数	138	149	150	148	144
接客娯楽死亡者数	0	0	0	0	0

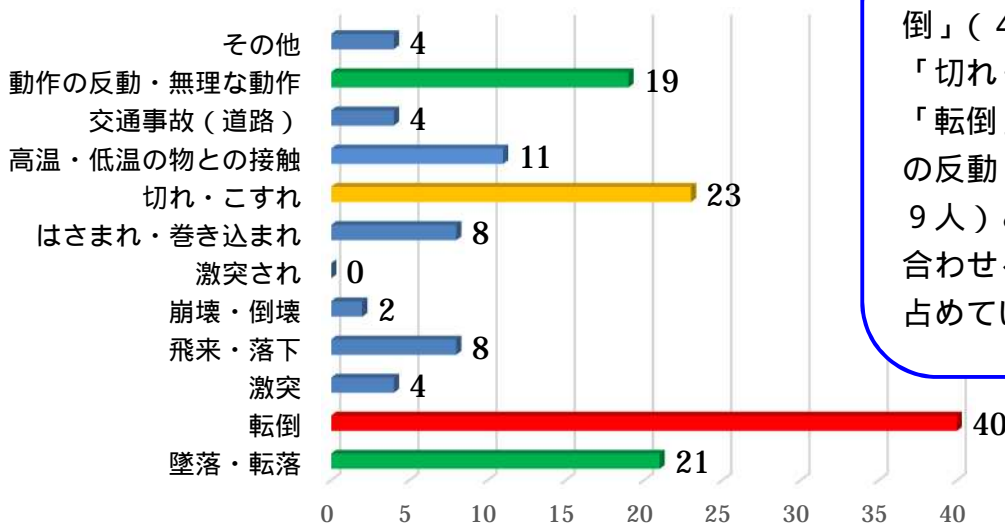
令和2年

業種別災害発生状況



業種別に見ると、飲食店が全体の約8割を占めています。

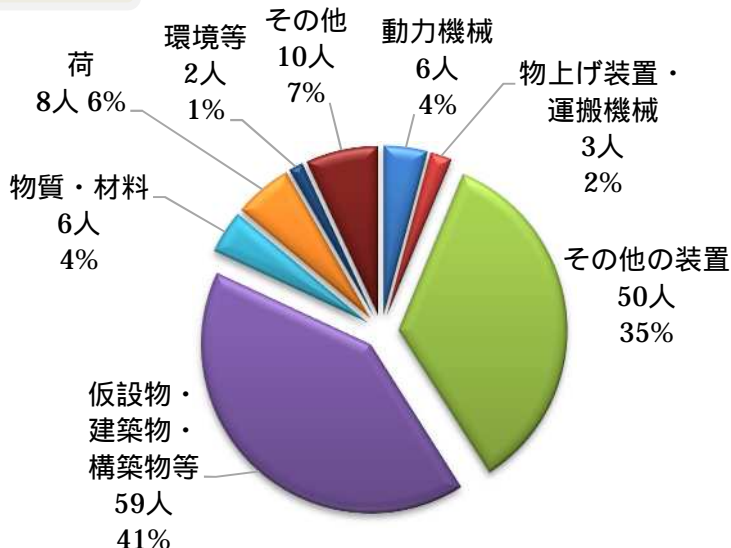
事故の型別災害発生状況



事故の型別でみると「転倒」(40人)が最も多く、「切れ・こすれ」(23人)、「転倒」(21人)、「動作の反動・無理な動作」(19人)と続き、この4つを合わせると、全体の半数を占めています。

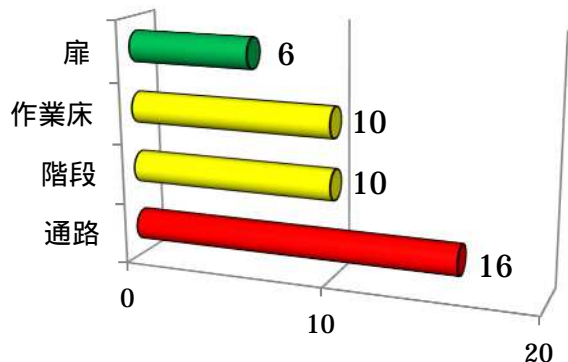
令和2年

起因物別災害発生状況



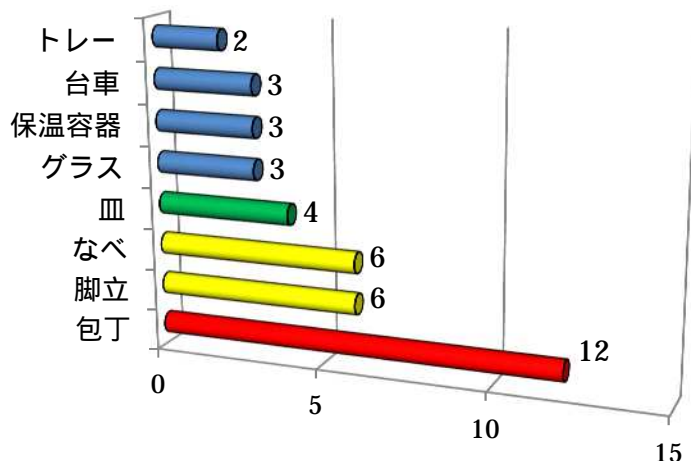
起因物別では、「仮設物・建築物・構築物等」が59人（41%）と最も多く、「その他の装置」が50人（35%）と続いています。これらを合わせると、全体の3/4を占めています。

起因物「仮設物・建築物・構築物等」の内訳
(2件以上のもの N=40)



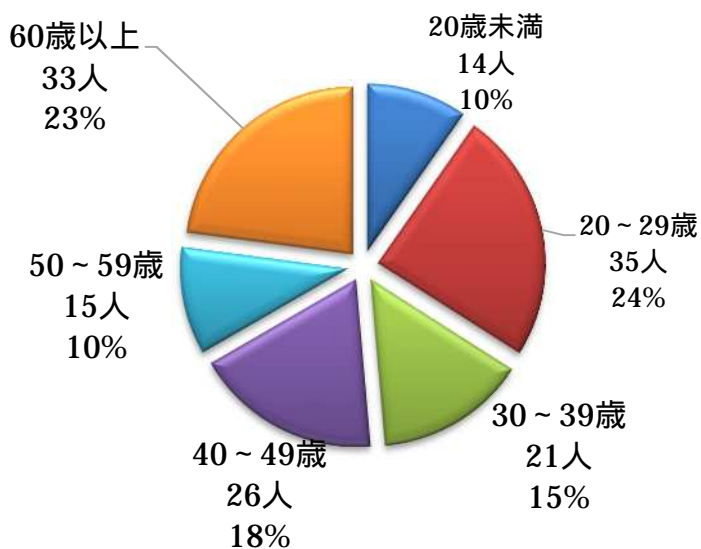
起因物で最も多い「仮設物・建築物・構築物等」の内訳を見ると、「通路」が最多で、「階段」「作業床」に起因するものも目立っています。

起因物「その他の装置」の内訳
(2件以上のもの N=39)



起因物で2番目に多い「その他の装置」の内訳を見ると、「包丁」が最多で、「脚立」や「なべ」に起因するものも目立っています。

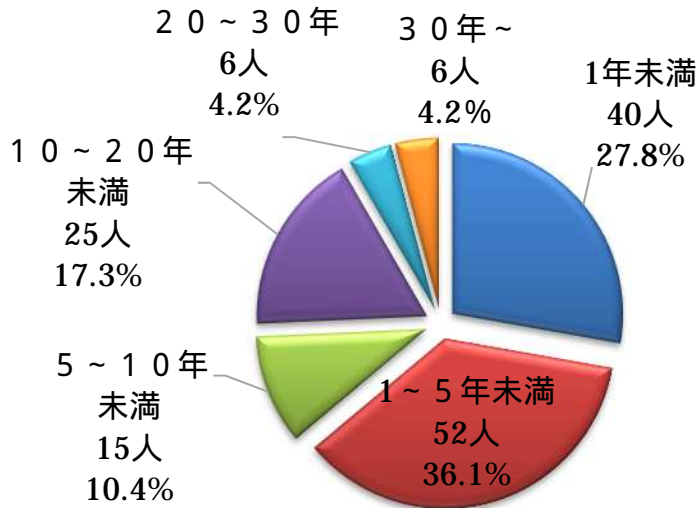
年齢別発生状況



年齢別の災害発生状況を見ると、20歳代が35人（24%）と最も多く、続いて60歳以上の33人（23%）となっています。50歳以上の高齢者は全体の3割程度で、他の業種よりも少ない傾向にあります。

令和2年

経験年数別災害発生状況



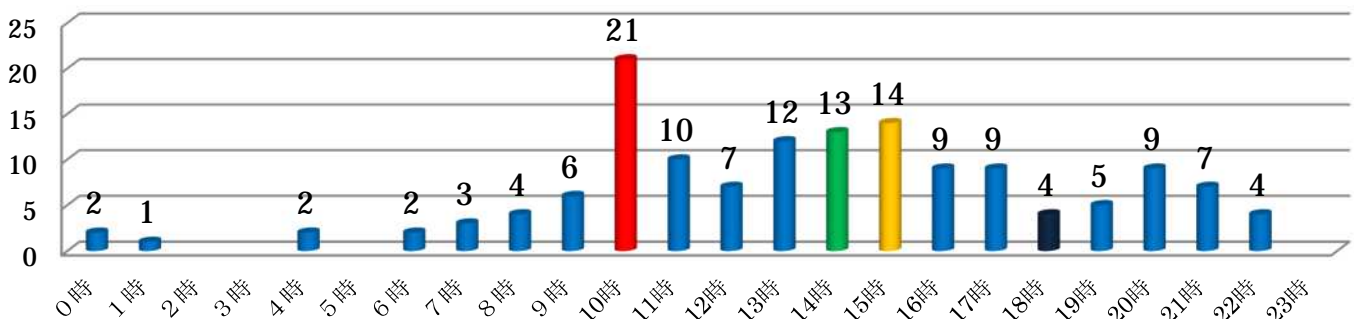
経験年数別では、1年未満40人(28%)と1～5年未満の52人(36%)で、全体の約2/3を占める状況で、未熟練、不慣れの労働者が多く被災しています。

月別災害発生状況



月別災害発生状況を見ると、1月、2月、10月が多く、4月が少ない傾向にあります。

時間別災害発生状況



時間別災害発生状況を見ると、昼前(10時台)と昼すぎ(14時、15時台)が多く、深夜時間帯以外では、18時台が少ない傾向にあります。

9

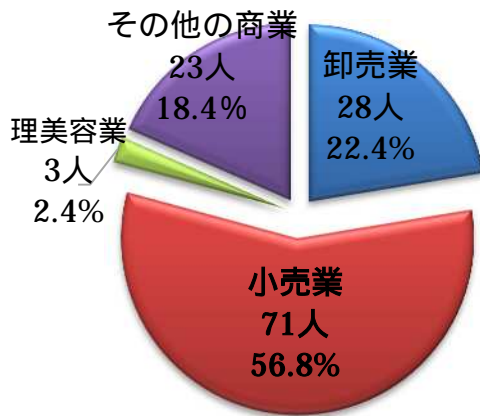
小売業における労働災害の発生状況

小売業は、商業の中で最も多く、過去5年で見ると、平成29年と令和2年は減少しましたが、増減を繰り返しています。
全産業に占める割合は、7～10%程度になっています。

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
全産業死傷者数	1001	992	1050	974	976
全産業死亡者数	10	7	3	3	4
小売業死傷者数	104	76	101	104	71
小売業死亡者数	1	0	0	0	0

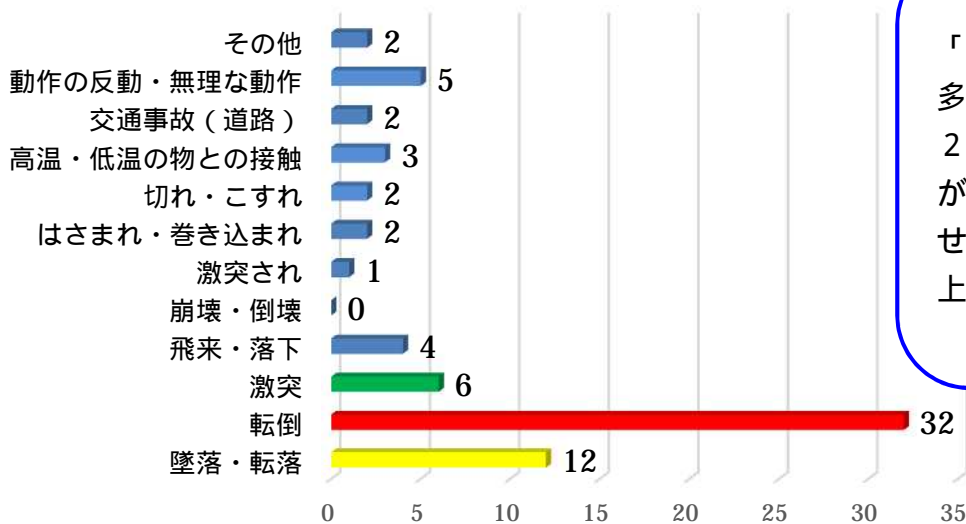
令和2年

業種別災害発生状況



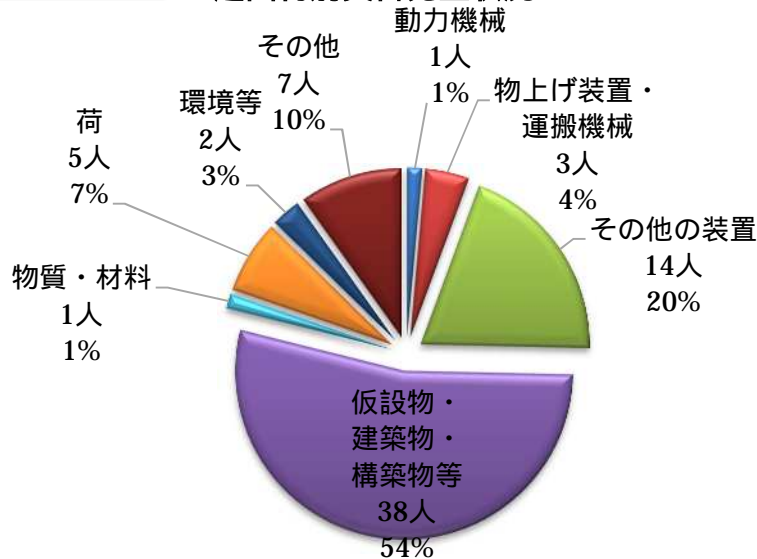
商業全体を業種別に見ると、小売業が最も多く、過半数を占めています。

事故の型別災害発生状況



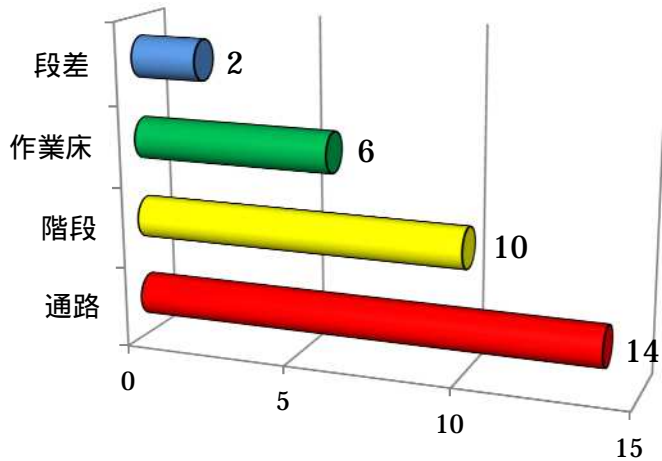
事故の型別でみると「転倒」(32人)が最も多く、「墜落・転落」(12人)、「激突」(6人)が続き、この3つを合わせると、全体の2/3以上を占めています。

起因物別災害発生状況



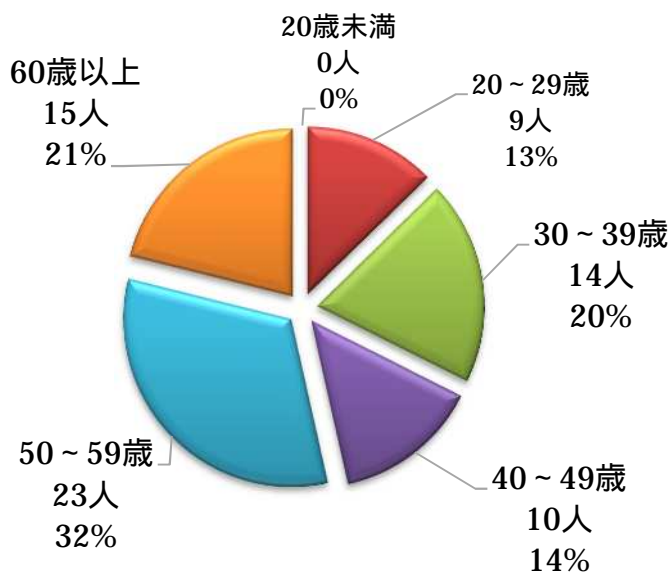
起因物別では、「仮設物・建築物・構築物等」が38人（54%）と最も多く、「その他の装置」が14人（20%）と続いています。
この2つを合わせると、全体の2/3以上を占めています。

起因物「仮設物・建築物・構築物等」の内訳 (2件以上のもの n=32)



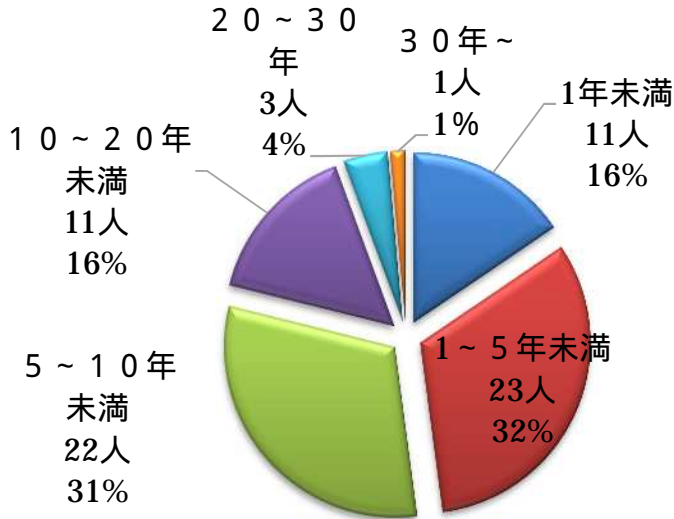
起因物で最も多い「仮設物・建築物・構築物等」の内訳を見ると、「通路」、「階段」、「作業床」、「段差」に起因するものが複数発生しています。

年齢別発生状況



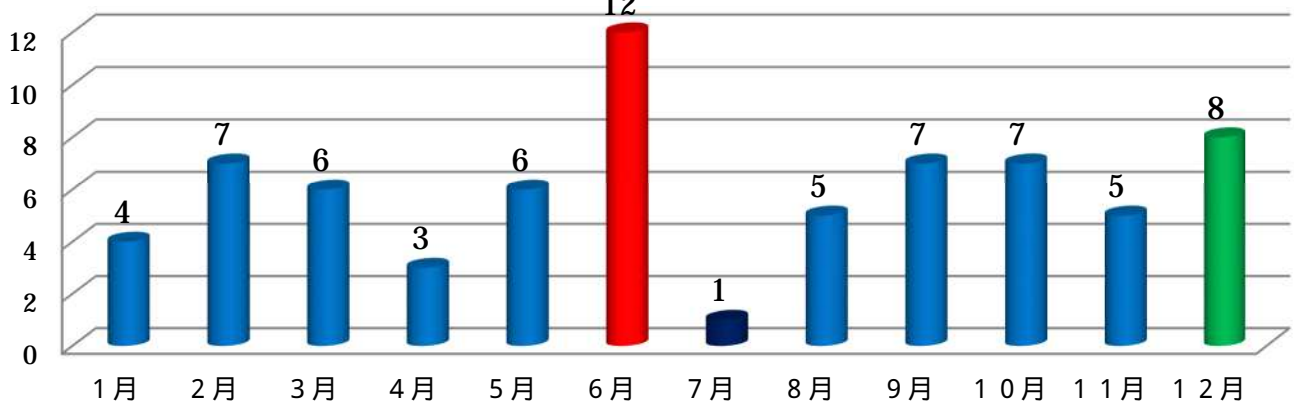
年齢別の災害発生状況を見ると、50歳代が23人（32%）と最も多く、続いて60歳代の15人（21%）となっています。
20歳代以下の発生が9人（13%）で、他の世代より少ない傾向にあります。

経験年数別災害発生状況



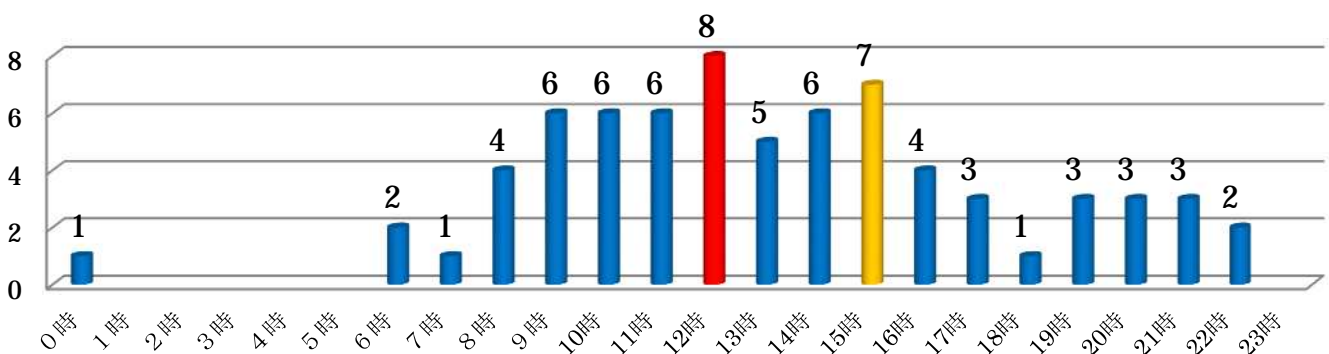
経験年数別では、1年未満11人(16%)と1～5年未満の32人(32%)で、全体の半数弱を占め、未熟練、不慣れの労働者が多く被災しています。

月別災害発生状況



月別災害発生状況を見ると、6月が最も多く、7月が少ない傾向にあります。

時間別災害発生状況



時間別災害発生状況を見ると、12時台と15時台が多く、18時台が少ない傾向にあります。深夜・早朝時間帯は少なくなっています。

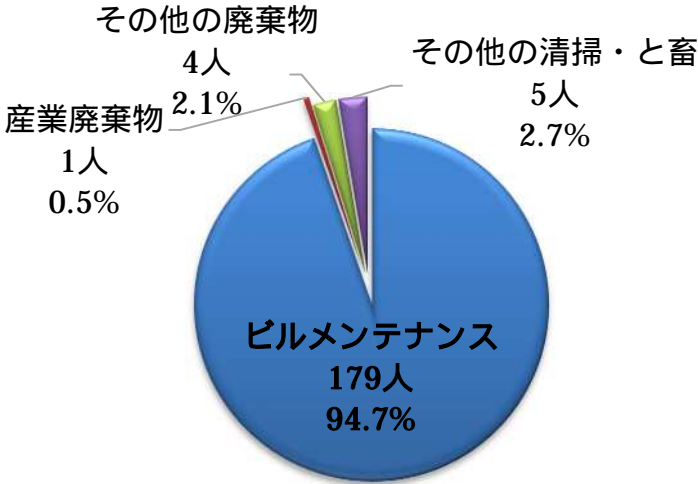
10 ビルメンテナンス業における労働災害の発生状況

ビルメンテナンス業は、全産業の中でも2割弱を占め、全業種の中では「その他の事業」の次に多くなっています。
過去5年を見ると、増加傾向にあり、令和元年は死亡が1件発生しています。

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
全産業死傷者数	1001	992	1050	974	976
全産業死亡者数	10	7	3	3	4
ビルメンテナンス死傷者数	144	146	168	157	179
ビルメンテナンス死亡者数	0	0	0	1	0

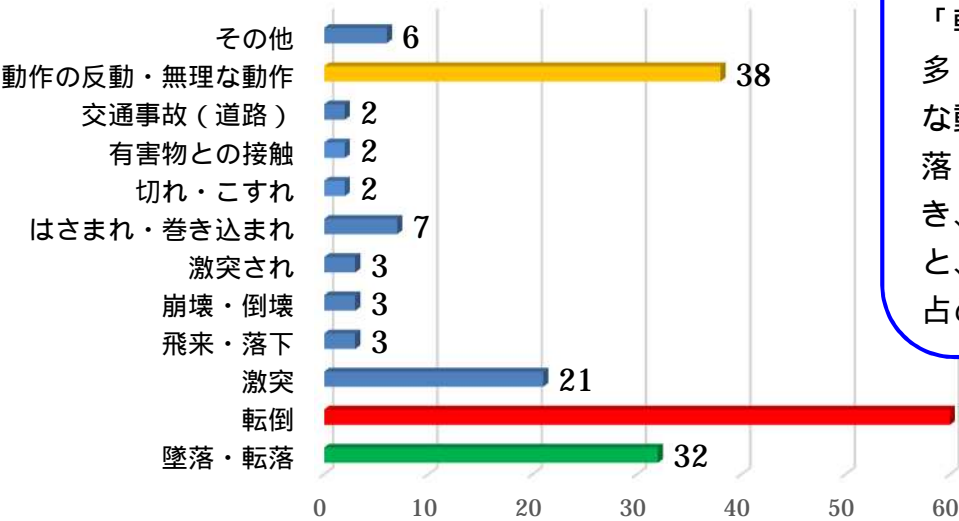
令和2年

業種別災害発生状況



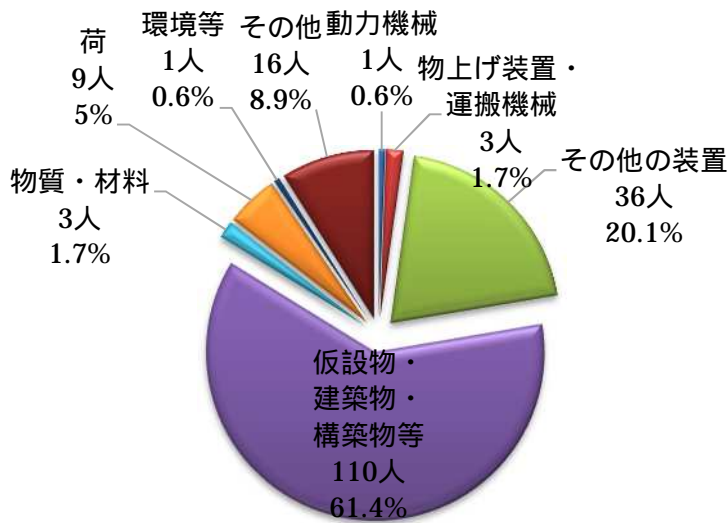
業種別に見ると、ビルメンテナンス業は、清掃・と畜業の一つですが、その9割以上を占めています。

事故の型別災害発生状況



事故の型別でみると「転倒」(60人)が最も多く、「動作の反動・無理な動作」(38人)、「墜落・転落」(32人)と続き、この3つを合わせると、全体の3/4以上を占めています。

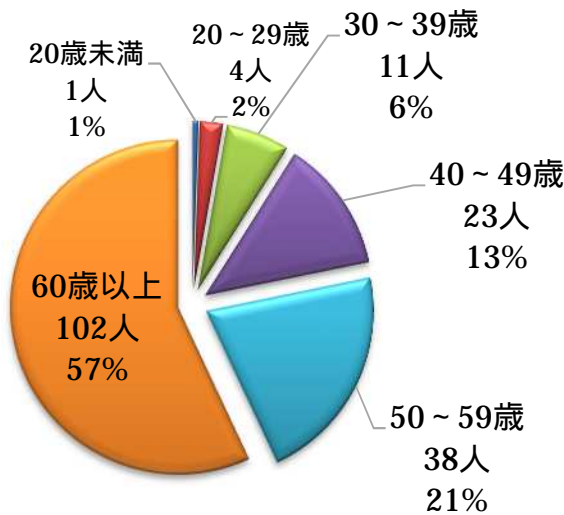
起因物別災害発生状況



起因物別では、「仮設物・建築物・構築物等」が110人(62%)と最も多く、「その他の装置」が36人(20%)と続いています。

これらを合わせると、全体の約8割を占めています。

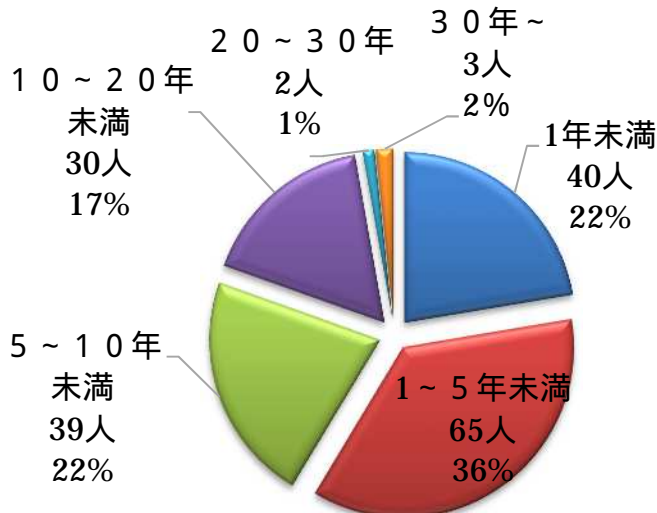
年齢別発生状況



年齢別の災害発生状況を見ると、60歳代が102人(57%)と突出して多く、続いて50歳代の38人(21%)となっています。

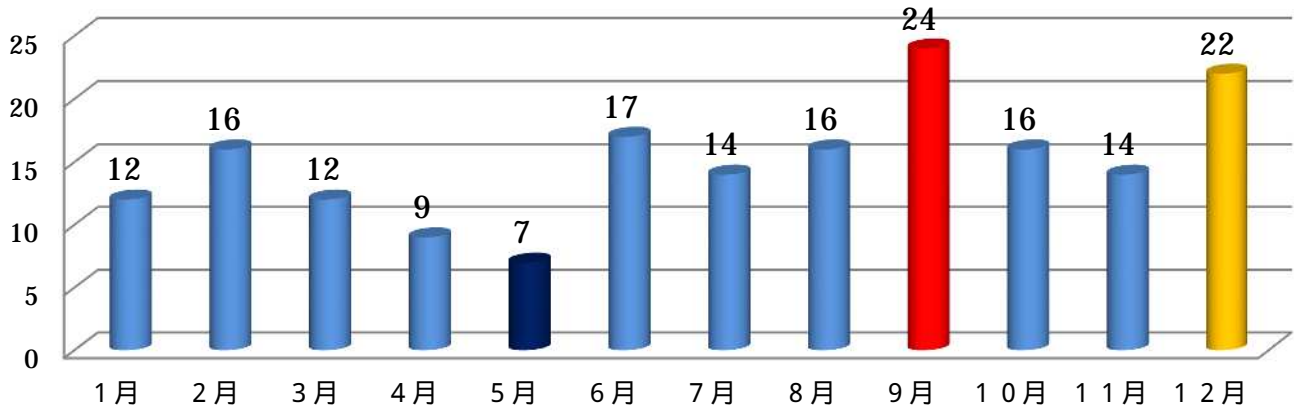
全体の約8割が50歳以上の高齢者によるものです。

経験年数別災害発生状況



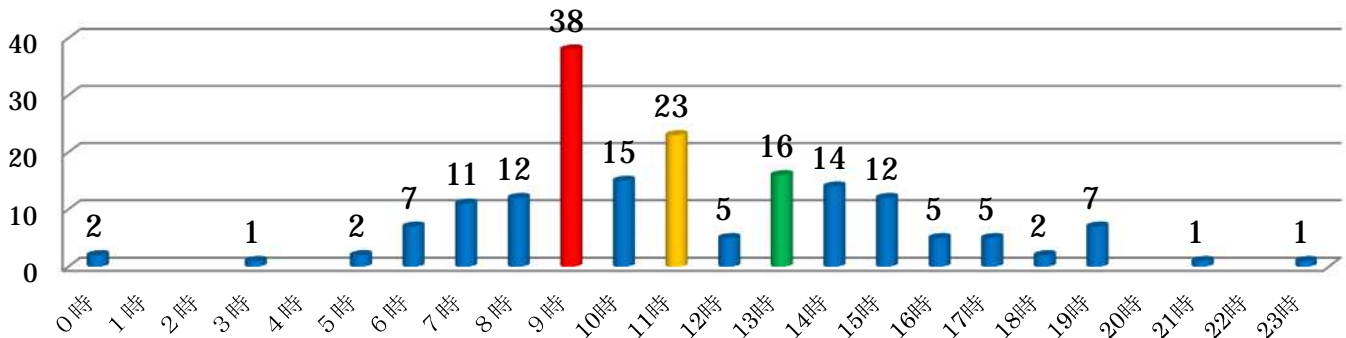
経験年数別では、1年未満40人(22%)と1～5年未満の65人(36%)で、全体の半数以上を占める状況で、未熟練、不慣れの労働者が多く被災しています。

月別災害発生状況



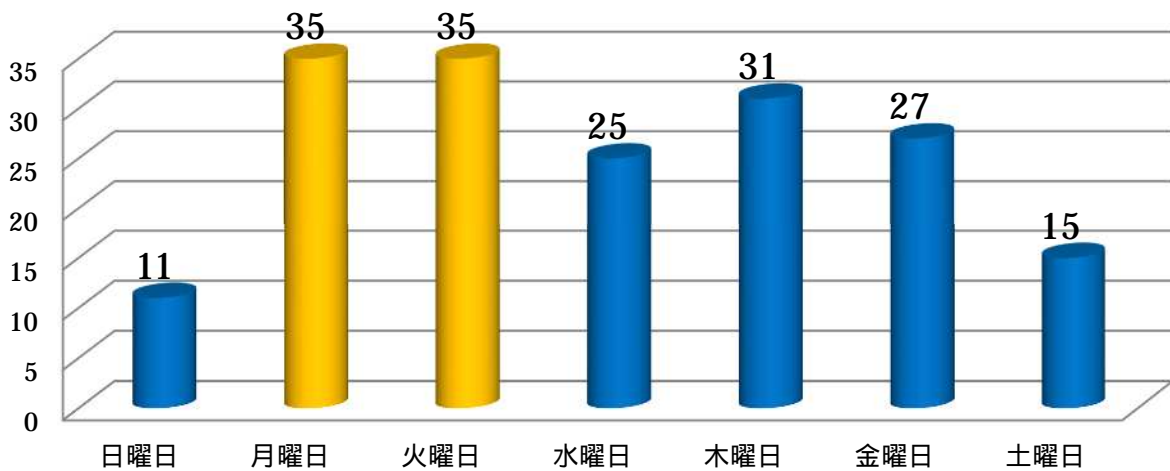
月別災害発生状況を見ると、9月と12月が多く、5月が少ない傾向にあります。

時間別災害発生状況



時間別災害発生状況を見ると、9時台が突出して多く、11時台、13時台と続き、午前中に多発する傾向にあります。

曜日別災害発生状況



曜日別災害発生状況を見ると、平日では月曜、火曜が多く、水曜が比較的少ない傾向にあります。

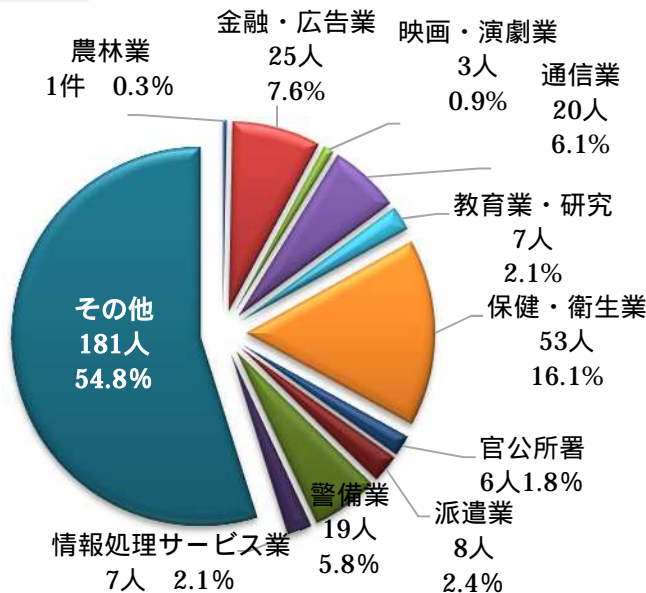
11 その他の業種における労働災害の発生状況

「その他の業種」（ここでは、農林業、畜産・水産業、金融・広告業、映画・演劇業、通信業、教育・研究業・保健衛生業、官公署、派遣業、警備業、情報処理サービス業、その他とします。）は、全産業の約1/3になり、過去5年を見ると、増加傾向にありました。令和2年の死亡災害は、全て「その他の業種」で発生しています。

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
全産業死傷者数	1001	992	1050	974	976
全産業死亡者数	10	7	3	3	4
その他死傷者数	297	326	347	336	330
その他死亡者数	3	2	0	0	4

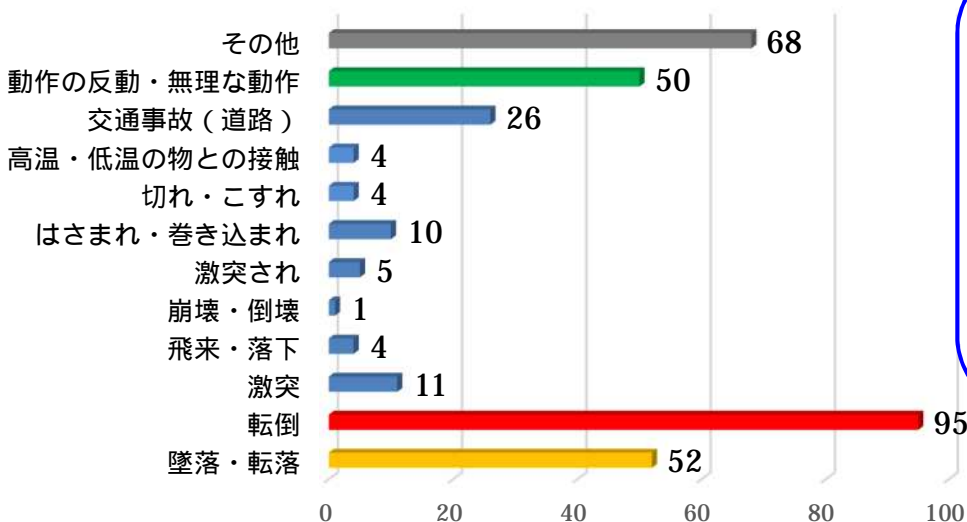
令和2年

業種別災害発生状況



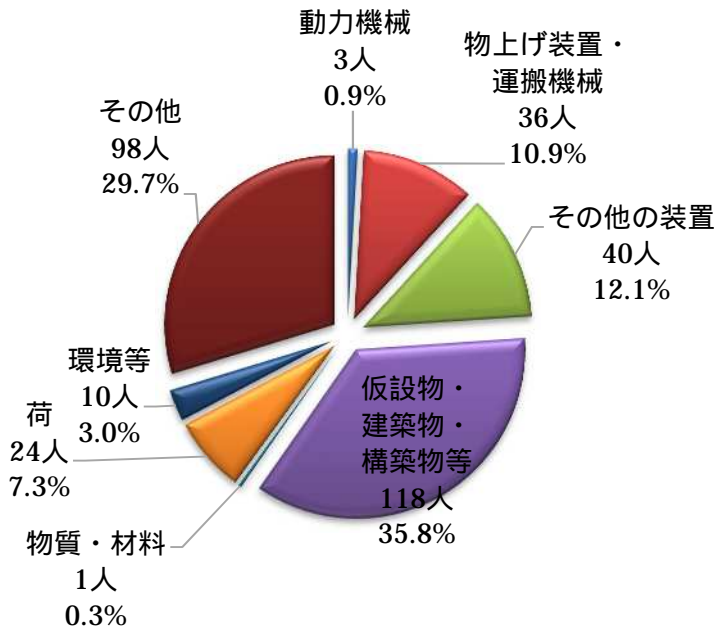
その他の業種をさらに業種別にみると、いずれの業種に分類されない「その他」が全体の過半数を占めますが、これを除くと、「保健衛生業」53人(16.1%)、「金融・広告業」25人(7.6%)、「警備業」19人(5.8%)が多くなっています。

事故の型別災害発生状況



事故の型別でみると「転倒」(95人)が最も多く、「墜落・転落」(52人)、腰痛等の「動作の反動・無理な動作」(50人)と続き、この3つを合わせると、全体の約6割を占めます。

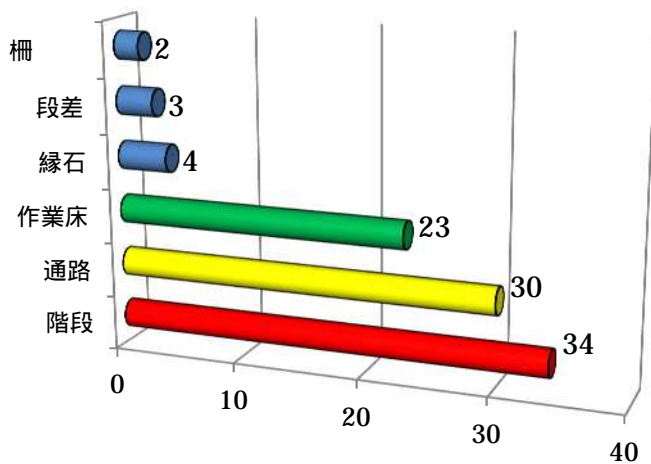
起因物別災害発生状況



起因物別では、「仮設物・建築物・構築物等」が118人（35.8%）と最も多く、「その他」が98人（29.7%）、と続いています。

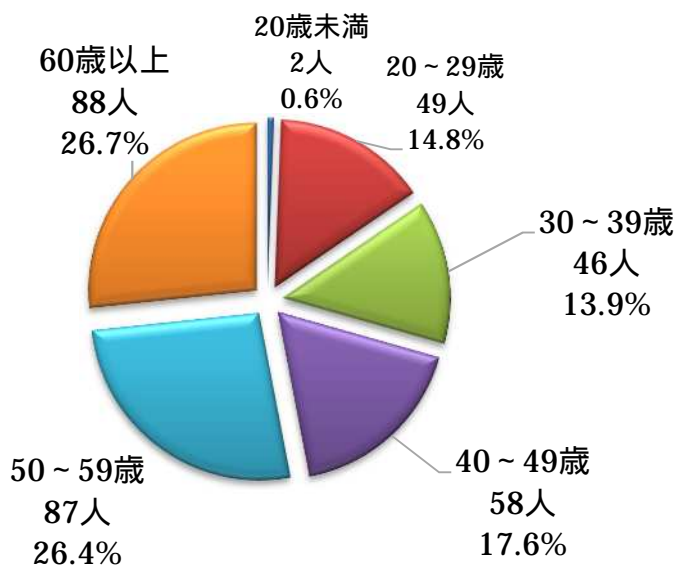
「その他」には、新型コロナウイルス感染症が含まれます。

起因物「仮設物・建築物・構築物等」の内訳 2件以上のもの（N=96）



起因物で最も多い仮設物・建築物・構築物等の内訳をみると、「階段」、「通路」、「作業床」に起因するものが多くなっています。

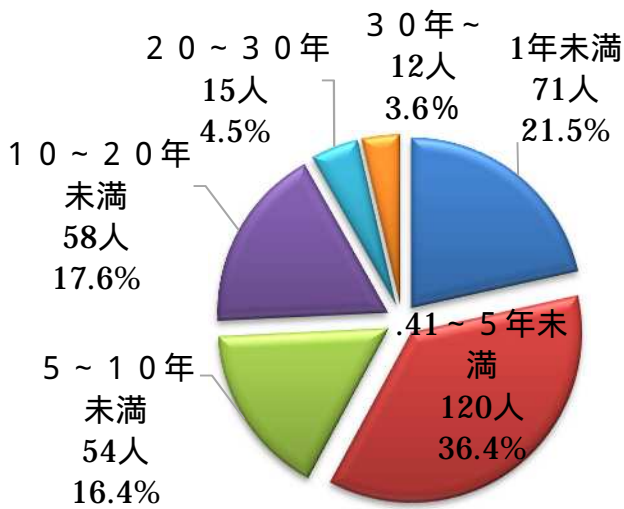
年齢別発生状況



年齢別の災害発生状況を見ると、60歳代以上が88人（27%）と最も多く、続いて50歳代の87人（26%）となっています。

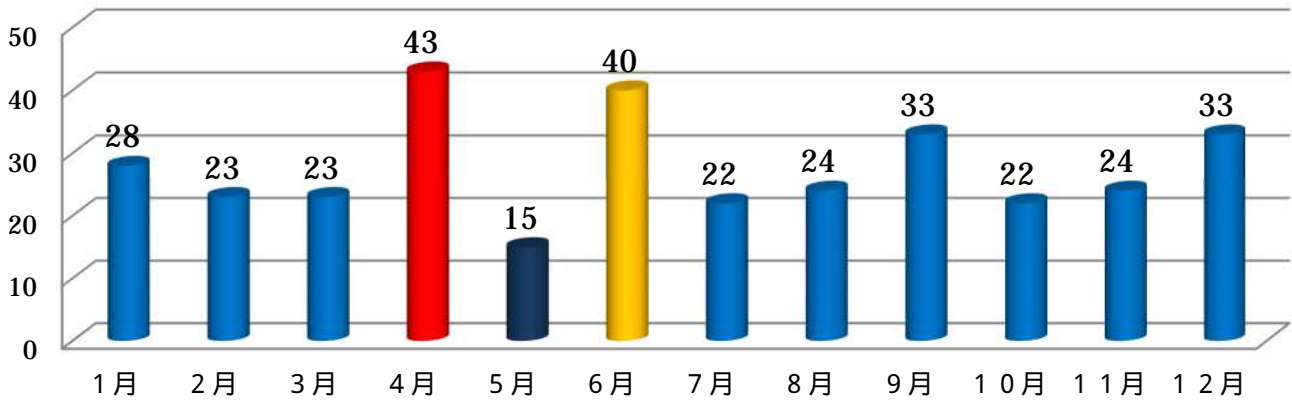
半数以上が50歳以上の高齢労働者によるものです。

経験年数別災害発生状況



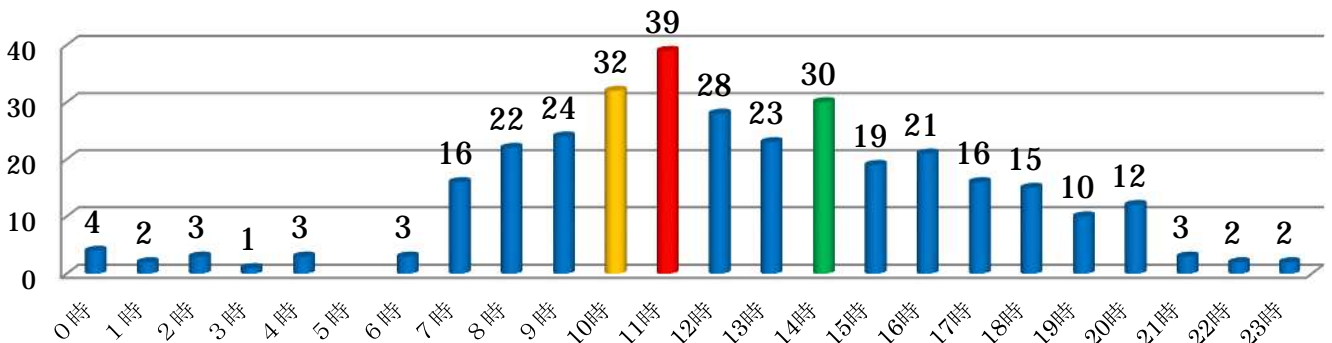
経験年数別では、1年未満71人(22%)と1～5年未満の120人(36%)で、過半数を占め、未熟練、不慣れの労働者が多く被災する傾向にあります。

月別災害発生状況



月別災害発生状況を見ると、4月と6月が多く、5月が少ない傾向にあります。

時間別災害発生状況



時間別災害発生状況を見ると、昼前(10、11時台)と昼過ぎ(14時台)が多く発生していますが、朝7時台から11時台にかけては、時間の経過とともに多くなる傾向にもあります。